



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 T11-Kodak

第四門
第三一九號
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會

圖書部
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會

尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會

第四門
包文第249號

尾張名所圖會 後編
二

愛知県南物品

尾張名所圖會後編卷之二

尾張大國靈神社
中島郡下

夜難賣の國

末社

神主

大御靈神社

修理若御子社

金名神社

天背男命窟居跡

長社天神社

中島郷

萩原驛

韋正寺

例祭

社僧威徳院

國術廳館跡

觀音寺

禪源寺

久田氏宅址

木全入左衛門宅址

中島左衛門尉宣長

萩原川

名産生姜

起驛

難負捕の國

大日堂

學校跡

稻葉驛

齋所權介成清

苗部天神社

長隆寺

串作の里

吉藤里

聖徳寺舊跡

起川

宗形神社

大江匠衛教導の國

伊奈波名神社

久多神社

光堂橋

觀音寺

玉江御厨

信長公富田道場のまゝりやふ事

頸長寺

堤治神社

吉田權現社

木曾川普請陣屋跡

性海寺

蒙古降伏修法の園

長谷部氏宅址

千代氏御園

千代名神社

土官大明神社

桂林寺

大中臣安長塚

八面森

愛智御曹司八面鬼と双六打園

益田森

加納院

馬橋

東源寺扒

増田右衛門尉長盛

無量光院

縣宮

堀田尾張守之高

大屋中三安資

浄土寺古跡

瀧川氏城跡

小富士塚

大富士塚

裳咋神社

敢臣船主

坂手神社

臨門天神社

願應寺

賣夫神社

屯倉舊跡

生桑神社

牛頭天王社

一時上廟の園

長福寺

國分寺廢跡

鈴置地神社

圓光寺

圓興寺

名産大根切干

船橋舊跡

船橋觀音堂

國鎮寺

白山權現社

山口保

野見神社廢跡

淺井神社廢跡

河俣下天神社

善應寺

八劍社

布智神社

正琳寺

王塚

徳永法印城墟

八劍官社

伊福部御厨

臨江神社

中野渡

名産櫻鮫

永張寺

神明社

祖父江古城址

祖父江羊鷹

長岡莊

轟川

皇大明神社

棟御園

神明社

地泉院

國府宮

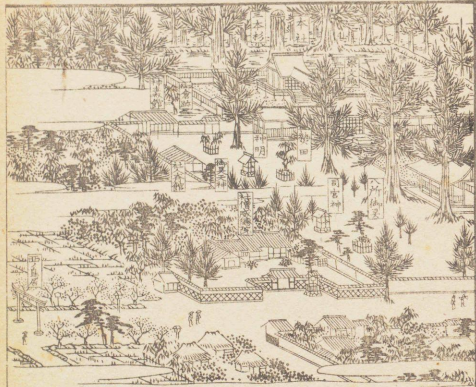
遠廟依松柏
居然太古風
蒸民仍難食
誰道非神功
阿彌陀佛



香

此社のありは
三條の杉樹下り
これに合ふに
許す林のあり
るに一本は
相模郡中島
連長百六人
のりては
海津田郡乃
津東と云ふに
信景
のりては
のりて
のりて
代
乃お里





天保七年 甲申 不松 中
 新 年 永 清 淨 子 居 夫
 かくし 候 御 幸 御 幸

世 一 下 臣 幸 宮 の

妙 鳴

其 二



庭 邊 の や
 大 木 の 影
 春 風 の 吹
 け ぬ け
 妙 鳴

二 四

つり清殿蔵言小建つるのまじり狩園上と照り凡と

開置石

本社

のすしにありて社名討小蔵殿蔵は入次持命の儀より命乞能登園時即に入次持命の神社とあり

三本杉 分社の小にあり大己貴命と名るゆふ神の社名といふ

大敷より三月三日の神事二月 古陵 政所の地なり

末社 神明社 國常主尊 天神社 少彥命 司宮神社 稚田命 熱田社 武尊

八所御霊社 今社多し神と 辨財天社等あり

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

○神宮神假面

○神寶 大鈴一 づり権本

奉幣

正月元日實例 非王社前に於て三月廿五日 御田神事

日居 御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

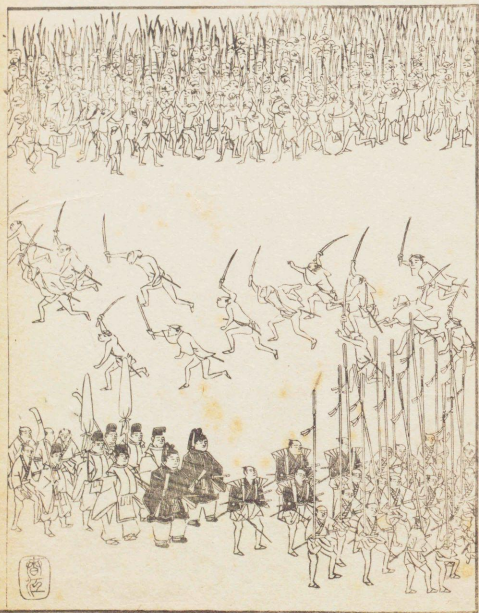
御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事

御田神事 御田神事 御田神事



祭りと年立つて天照大神の御命と奉り、五人御と尊ぶるに成感せし事、
祭人の以て成感せし事、一人及び二人、白及と申す事、一人所と被授け奉り、大宮代と申す事、
連神より并神と申す事、世に成感せし事、神道名目類聚本朝御園本朝御授取事、
御園里人誦書事、大政神家御授取事、
一 万歳祈禱 田中重正御神供 政所御饗 取かたは、映御園遊難運取の前、宮
訪有支名と申す、注性注理の并奉修、大宮御舞、田中重正御神供、大宮、
供神と申す、天女、湯と形、
奉射 田中重正御神供、
大宮大御饗調連 五月四日、子刻、内津、大宮、
大宮大御饗調連 五月四日、子刻、内津、大宮、
御鎮座尸神支 田中重正御神供、
虫拂 七月七日、
新嘗祭 十月七日、
御園所用之に成感せし事、

大宮御寄
年頭大御饗 田中重正御神供、

神主 田中重正御神供、
神王 田中重正御神供、
社僧 田中重正御神供、
威徳院 田中重正御神供、
大日堂 田中重正御神供、

宗形神社 國府宮の別宮にて角玉明神と申候、宗形神、大己貴命の室の
神、

宗形神社 國府宮の別宮にて角玉明神と申候、宗形神、大己貴命の室の
神、

夜
佛
迎
の
神
事



二ノ





國術學校
大江匡衡講
書の圖

匡衡朝臣、和漢の大方、ては、文朝
野群、載本朝文料、詩、新撰、明詠
集、和方、後拾遺集、續古今集、新
續古今集、中古、古今、新、百人、首
等、小、足、り、り、自撰、下、百、の
書、江、吏、部、集、大江、匡、衡
家集、也、り、り、

けり妙哉のちまてし般若梵僧の仰る令依わつ評師の牌子も書けり於り
永正二年四月十七日 蘇と説くけりてりてりてりてりてりてりてりてり
てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

稲葉驛 美濃路 東海道要田原より北小ワレれて上京の宿驛として東の方清次
より西の方菽原宿への馬継り町屋長く連り公私の旅客

常小純常小純

元政法師

伊奈波名神社 稲葉村小入り今三門権現し惟す本國帳小徒一住伊奈波名神社
見しう美濃國厚見郡改年にも伊奈波大神と曰ひ侍り

金名神社 同村にあり本國帳に惟一金名神社とあり美濃國改年の稲葉山と
いふに同村にあり

金華山禪源寺

同村小入り臨濟宗曹洞宗心寄主和二年九月大清行創建
永正九年勝山和尚再興す宗法よりして大創りてあり

塔頭 寺至

行基作の地甚苦蕪收獲半の留製像其外唐画の
幅多し將軍家持頭の時茶坊小あり

齋所権介成清 同村の人長生堂あり成清の子冠者清道演頓と曰ひ因縁あり
理も射り少改年東大寺の大佛佛坐の所に父母より

心でつらか俄に心おこりてお祈りんとせしけりて又母を以てわふに祈りし
心おこりしをいふふなとありお祈りて東大寺の主人に告ぐとんとて
工入しけり鳥帽子とてお祈りてありお祈りて申すは山の新別所を居り念
佛よくわたり又母をわたりて天をうへ所へお祈りてありお祈りて入
権者つらなりや晩年におつて天朝とありてお祈りてありお祈りて入
心集及び三國傳加ふとありは権介成清の遺蹟の仁あり一書活字にてある
ありとて業としてありは移家村の齋所とてあり大嘗會の齋所とてあり
お祈りしてては地の人とあり

久多神社 稲葉村の久多とては小入り今廢し惟す春神名式あり

天背男命窟居跡 同所小入り命の中島海部直の祖神とてここに居りて是又田
元の志記よりいふに石窟とてあり人地中より
元と所お祈りて久多の地變りてとて准人の居世つ今あるあり

久田氏宅 同村小入り久田氏の遺蹟とて陸奥か尾尾同唐宮の神主中島連の天
代田部四郎元政より建武四年二月 齋所と賜りてあり

部田相模も 甚藤宣今所 寺に存り死せり

萬部天神社 同村小入り今廢し小入り本國帳に從三位垂都天神と見たり古社
とてお祈りて下に乘へ且和名抄小中島郡萬部社とあり舊郷も失れり古

大光山專正寺 大田村にありて井之口頭 杉原寺とて海保郡藤原の天台宗ありて延
年今今院とて甚藤氏行西邊 藤原寺とて海保郡藤原の天台宗ありて延
年今今院とて甚藤氏行西邊 藤原寺とて海保郡藤原の天台宗ありて延

長杜天神社 西所廣村小入り本國帳に從三位長杜天神とあり古社あり

長杜天神社 西所廣村小入り本國帳に從三位長杜天神とあり古社あり

伊奈波神社
 禪源寺
 金神社

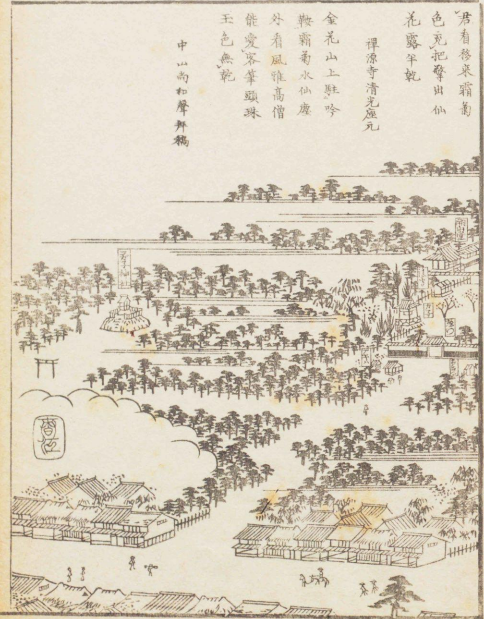
隆虎之享保
 三年戊戌十月
 玃使東行陸水の
 時尼西金花山此
 傍詩之作てて
 題來王子塔
 不謂我山族錦
 嶽風光此日自



君看修采霜菊
 色免把聲出仙
 花露半乾

禪源寺清光應元
 金花山上駐吟
 鞍霜菊水仙塵
 外看風雅高僧
 能愛翠華頭珠
 玉色無乾

中山尚和聲并稱



中嶋村
長隆寺
延命寺

香野の寺併し
尾張郡中島
中島郡中島
郷にんり
さ里子



甲斐根集
古寺の
併け
おろそ
里のうかひ子
甲斐子

木全又左衛門宅址

木全村及び輪吉村小かり木全又左衛門忠隆某祖と善縁ありて世の比と誇り仰ま三百人？融合して此ノ宅と木全某とあり不意とありて松と多し村並り世の天変にありて一武時碑玉といふ書に云々是名古左大臣徳川某の記あり

無量山長隆寺

中島村小かりて其名京一宮村地蔵さま古き時小古推して古佛古堂より多し其華と巧し即相日月の御くも形なりれ記甚智近一もく日光菩薩月光菩薩之へび古寺の堂なり以二十五菩薩の像と華をいりて多く敬せり此日光光の妙くありあふ寺堂甚妙画像一巨勢金剛の華五丈童子動画像一智達大師の華不動画像一傳教大師の華其外唐像の多しある

光堂橋

田村小かりて佛間の寺有りまわつて光の堂といひその以少齋院にて此地に堂ありて其名跡まう長隆寺とて山園寺の支院多かりて其堂も在蔵ありて此地にありて又村自不讓摩羅とて地名のありてまうとて其堂も在蔵ありて此地にありて古寺の多き地あり砂名集か尾張國中島といふ所に道徳の五人の寺にまうて傍に五人止住り佛法の衣鉢うんと守りて後より其所小古木の大きと道管の寺にまうて傍に寺ありて在家人に相神つて守りて我輩は此寺とて敬したるにむに佛の傍の多く敬せり此日光光の妙くありあふ寺堂甚妙画像一巨勢金剛の華五丈童子動画像一智達大師の華不動画像一傳教大師の華其外唐像の多しある

中島左衛門尉宣長 田村の人なり此寺の同山誠堂和尚の 東鑑曰延應元年九月廿一日尾張國住人中島左衛門尉宣長者承久逆亂之時為官

軍之由有涉汝被叔公所領然而當時候御所中頓依愁申之於尾藤田島者可付渡之旨今日被仰付西郡中務丞云

串作串作の里起乃乃の村なり和名物に中島郡名作以之なりと云るの事と代々申之と云るに保康三年造内裡取鏡井因役引目は八百五十五進士二郡尾藤原中島郡内掛河室辰鏡くわいの村

河室山觀音寺串作村ありて浄土宗元祖の曼陀羅寺也河室の舊地名と云るに保三年改馬倉宮小澤一ツ清國原氏郷の郷なり尾藤原河室判官代と云るなり

萩原驛 美濃街道の宿駅東の方稻葉宿より西の方起宿の馬延

分り町のうち長く農高軒とつてつとて賑ひにさきなり
五萬貫 天保七年甲戌 將軍 赤井上洛七月六日尾張國長未元とてさきより
以のわいし所とすけり萩原此のこけりの積のりとも
杜藤原 甲子の初原ありわいふるものわいふりなり 元政法師

萩原川 一名古川といひ萩原右の西と流き街道か板橋と架りけ川
 びりの木々川鶴沼川の喬流よりほ世川の瀬とて起川と
 本流となれとびりの流の流やく跡と云なりとより長流の

大川うれひ所くに決りて派發道跡なり

續日本紀曰神護景雲三年九月壬申尾張國言以國中央美濃國堺有鴨河
 川今年大沢其流改道毎日侵損粟米中島海部三郡百姓田宅又因東井
 國分二寺俱居下流若經年歲必改漂溢理請遣餅工使設開堀後其道
 斷之

三代寶鏡曰貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國古昔廣野河決向美濃
 國當于斯時百姓無害而頃年河小橋架結落此國每逢而水動故臣等
 請掘開河令起舊決太政官處令依請
其後決河昔謂之美濃お合勢舟の人といひ中島郡の人と争論ありつひにお合勢の及び
 人といひ 幸三代美藤小足より其文

吉藤里吉藤村と云るなり 尾張風土記殘缺小吉藤山出脩竹寺杉栢松等鹿苑
 多頂上有池焉吉藤池昔在神辨三段之荒玉築社於此池中每

秋供饗以入當時絶亦社之在可減焉と云なり今に鹿苑かど
 の位は山もつとつて松林などの麓くむりの山に面彩の跡より
 又村の南れ方に山中とへり地の砂より風土記の説より合つて

三三の荒玉の社のらり池も今にありて玉はとより

玉たなまの 江御厨厨の 菖蒲地吉藤村にあり神風神社尾張國玉江御厨とあり今神江と云るに

朝あさ江神社



不毛の
器
仕掛
沖の
島



江莊田島十四町四段
三十歩

江神江村社目村延喜神名式小中鳥郡江神社本國帳小従一位

江名神と云ふなり今神江明神と稱す名勝志に住吉神の皇斤三韓

山高小の故に此と稱江と号す選治の後清岡の放生池と置

星丘所よりと云ふ記あり田中作之社僧青蓮山神江寺とひて昔洞客三関村江眼寺

三代實録云貞觀七年十月廿八日丙子授尾張國正六位上勳江神位五位下

名産生姜阿古井村より出取大々々北見の所々あり狀一紙曉く作りて下小田井の平人

聖徳寺舊地前田村小あり在古全七間所の聖徳寺此かうりゆゑ今も前田の

所より少寛文四年も号と降麥寺と号り支那の支院と依信長公美濃の守

信長記の曰信長卿の行跡用いながら一頃あり近處にわたり

名坂山城守が家の子ども山城守の前より信長卿天鳴呼の人とて

ゆき連ちんげたりわひるに式時道三祝儀信長の御誓の見泰おんひく善惡

とごころ足むり小四月下旬富田の寺内聖徳寺まで出りけん同

淨慶寺

日ひのひらしひ

ああららけけのの月づき

ああららけけのの月づき

英喬



曹

起川



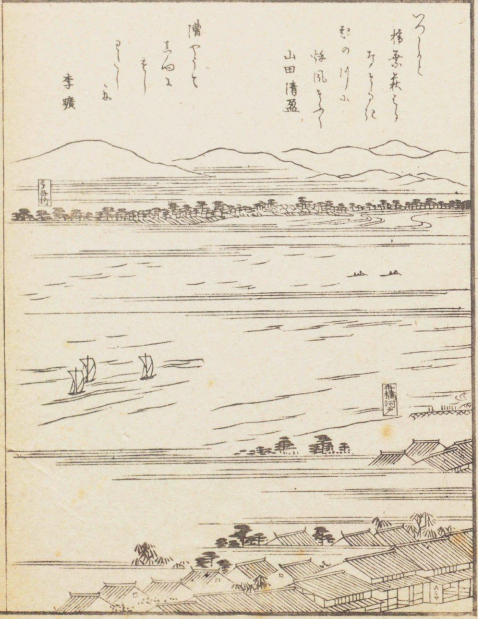
山晴春渡白鷗
飛緑水浴秋
錦衣時望雲烟
螢風聞更歡尾
起早逢節
中山茶邦錦



ついで

揚赤茨
たきかた
むの川水
性風まよ
山田清盈

備
王の
そ
か
寺



現治神社
吉田權現社
頓聴寺



吉田

文久八年
招はる
ふく晴
吉田高建

大塚山灌頂院性海寺

大塚村にあり真言宗本寺也本寺仁知寺の碑に性海大師の現在ところ七種の色衣着服し何代も継がれ

のり被降屋となりて一向宗東流修行寺と
造ませりあちい居るを智徳寺の小まうり
寺に先許りてあふ
一宗の寺勢なり
あちい弘仁年中弘法大師熱田大神宮へ来
詣の折し此地と過らせける小威容嚴然し老翁一人出来
見大師小達して告げらる尊師のつて勝地と索り真言秘容の
道場と管構し衆生と海度せん志りわたりて我れく知也
とたわらんふ此地に勝と海所うとやく精舎と管に給ひ
給しんひ予りて行方志し候去し世ぬりて大師老翁のよこ
に巨高ちを創建し自ら愛深明王の像と彫りて金堂に安
置し又鑰像の大聖歡喜天と鑄造し大さうも塚と築ま
其像と埋し國家鎮護の表とせし其塚今猶境内小けり
村名と大塚しんふは塚より起まり其後四百餘年の星
霜とゆき堂宇衰廢小及びいと建長年中尚那の領主長

性海寺

通称浄福寺

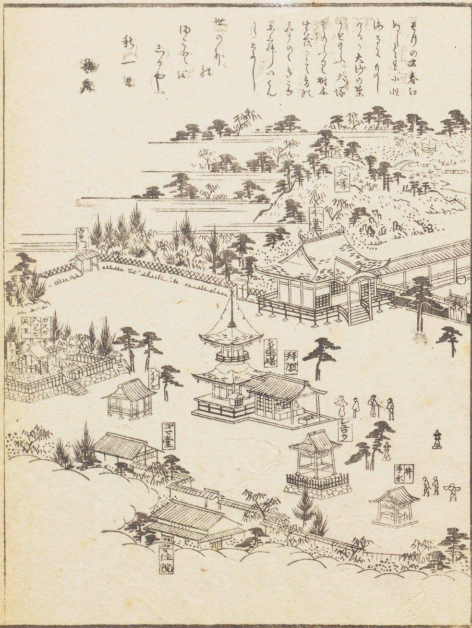
或稱五太

祇園堂、梵
閣深堂、無
極、門便、偶
集、達社、紅
慈、佛使、遠公
阿、勝、吟、比、者
緑、旗、風、登、影
恒、四、佛、竹、畫
天、院、從、若、能
聲、交、歡、去、定
理、供、園、不、深



そのり、は、春、の
り、く、は、水、の
は、く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の
く、は、水、の

世つれ
ゆきや
うや
秋一
海



谷部民部大輔源政源政與復の志願と起一京都東若

倉の良敏上人と力と合巳金堂灌頂堂護了堂鐘樓山門等と

營建依依て良敏と中奥の閑山と依良敏字、敏是熱田大寺司の家

深廣より木州の浄心陳州の照寂の随つて天台と孝以祝麻寺の大圓小寺、性智和順少て宇成

教と受け世大寺の住り圓照の孝と説て戒と受け律と受り孝、及以略現賢三事

寺と同創して宗義と清大木州小宗教と戦つて良敏と力りて姉と依委一く、本朝高僧傳が出たり、

良敏の法嗣淨流上人の時 後守多帝の勅を蒙り弘安三年二月廿八日僧衆五

十餘口とて蒙古より襲来一異賊降伏の秘法と修り十

よて代々の位階持孝つる多く他の多佛名高に未地すり事之中山の諱、忍律師成内其野につきて来り、は位階つり、位階、兼、且、或、之、

作り、い、と、年、十、七、の、弱、信、を、小、亦、も、左、右、類、ひ、う、り、し、り、位、階、兼、兼、一、且、或、之、

法、年、若、く、多、う、り、清、作、の、少、き、小、業、と、止、り、て、事、の、而、も、亦、ら、く、良、谷、智、輪、の、

官僧に備はに至らむとて及び是が神恩がしりて堂中に安置の弘法大師の像

と指して或彼がみく及びして佛室の板敷万徳まありも辨本堂、兼、文、三、年、清

して和法の居を得りてまちに佛室の板敷万徳まありも辨本堂、兼、文、三、年、清

忍の法をたてりて河孫院、初、も、勢、至、一、元、三、勝、の、源、と、倉、原、の、内、に、納、り、

て安立次尊勝陀羅尼とて五、尊、殊、塔、と、号、依、塔、首、に、二、十五、菩、薩、と、画、り、

巨勢金剛の華一縁の服五の四天王の像一運慶の作別禮の客殿、通、見、法、師、三、真、事、

地蔵とて安河法作又持辨堂の阿弥陀木像為、光、大、寺、の、院、

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

局額と 護摩堂 宝藏 庫裡 書院 廻廊 唐門 等 其外の諸宇

巖然より愛染塔 境内小あり二重の高塔あり弘法大師作の愛染明王の六

つうす明王念怒の面容儀形成靈りてあり一、威、應、摩、羅、子、は、世、人、鐘、樓

対小若敷一節日小く若法の男女群とてあり入塔の東に三、に、每、空、巧、鐘、樓

連在年中の走をり其佛清浄に港八天三年中岳敷敷あり伊勢の安後陣の

圓所の阿弥陀堂小あり今打故堂にあり今、鐘、三、年、三、月、揚、

り、弘、一、聖、天、塚、今、堂、の、西、り、塚、山、り、私、住、大、師、管、業、と、秋、在、天、の、湯、池、と、り、

ふの法儀より松林等の湯本多くあり一、并、に、池、と、り、

紅葉とて依りて楓花を絶めぬ林、多、く、

寺領 長谷郡源政が寄附す、 寺宝 綸旨一通

院宣 二通 共、小、年、号、不、詳、 尊氏公祈

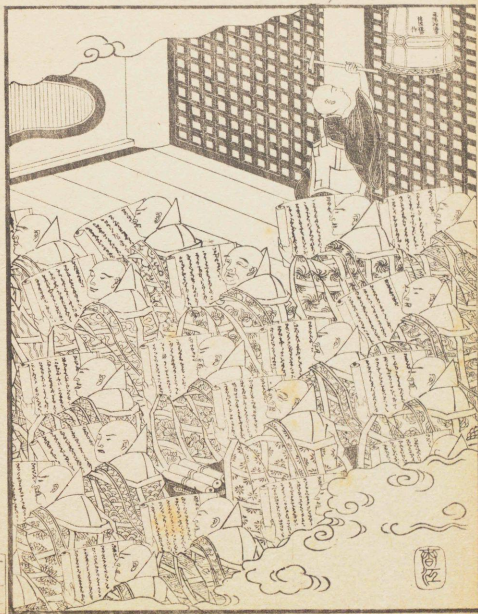
同制 札 九月上日 直義公制 札 建武三年六月七日 北条時頼證

状 正成三年 異賊降伏御祈禱證状 蒙古の異賊降伏の文書、弘安三年二月

熱田大官司寄進状 弘安七年 尼尊如寄進状 二通

沙弥唱叶留記 正嘉二年 尼園日寄進状 嘉曆三年

の修降蒙
國法伏古



天文七年 豊臣吉房證状 文禄四年 其外建武三年二月の宮内大輔状

状及びまて二十餘通あり又弘法大師自画の像とて不働

明王愛深明王五字塔の三幅も共小大師の筆あり其幅芦二幅

の二幅對雪舟 竜虎二幅對相阿 山水人物等の屏風 實谷 同 水徳花

籠 文明十四 明の畫に永正十四年丁丑五月十三日辰之鐘主

鐘 筆とて四の文あり信濃後田次作と見ゆる云々如く 異賊降伏の半

鐘 後の版に種彦あり毛洞伏の事とて服さつる致すの事ありとて

考香作といふ仁王の二の破より一昔仁王門を閉りてかゝカシの

大海と雲を巧りて又中今もとり瓜ひの方仁大門口に云々ありとて

の塔 石の五輪ありて弘法大師の筆あり石の面一に種字と彫其下の云に此塔を始りて

号起りて

性海寺 岡田新川 見澤園標一 大宮司李雄

風吹花樹度祇園満地晴沙有履兼迎 住常開長者隆三尊一塚中靈開無人識壁上留題尚

自存繪樓成經知幾春山僧誦得課 長谷 松尾虎吉

今も頼りかつてはの坊より一の世に教たりて

家のうのねもふしとれおとすてのうれを神にわたり

長谷部氏宅址 田村小川に長谷部氏宅址あり中島の部吉氏部太清院也 清和天

皇の御より負地教王の苗裔長谷部長谷部長谷部長谷部長谷部長谷部長谷部長谷部

少て代大塚に長谷部改姓年論製して唱呼とも次其子と長谷部改姓入道明河

とて明河の孫長又三部持信の孫あり長谷部とて長と谷苗とて前田侯の長

臣長九房あり解連也其長孫の千代氏御園に記あり

千代氏御園 今十代村に記あり大神宮の御園にて千代氏御園といふ人つとて

所藏の延文六年三月八日の寄進状に尾張國千代氏御園内永吉田代之筆といふあり

性海寺所藏の建武四年七月の渡符に千代といひ書て氏の文字と者あり

千代名神社 同村小川今明神社と長谷部本國帳中島郡保一住

土宮大明神社 北条村にあり生玉津に依禰社に殿野大神といふ社あり毛本國帳

小坂三住兼野天神といふ古社あり今も未社とあり

稲藁山桂林寺 北条村にあり智光上人の墓より行堂の跡あり

大中臣安長塚 同村にあり二條院の神守應保年中大中臣朝臣安長塚の寺と

寺と是より一其人の墓と兼て香火とにむかふ今も廢しあり

長谷大臣清磨六代の孫齋官助茂生の七世の孫神祇權少輔大中臣能兼の墓と

群書觀經の大中臣 茶園にあり

八面森 有松村にあり小川わたり八頭鬼とあり 陸奥に中島郡有松村近

松の敷く見ゆり松と八面の社といふは所小八頭の鬼津位



愛智御曹司とソノ人ハ鬼と變六うらて勝り後鬼井の力にて
 人氏と怒り伏せぬく之つて人とわく是は神と云ふなり
 一祠と建祀り傳ふとや凡村里に傳ふ可憐なるたがひ多し
 智下鏡守源義成（所記）庄司をて右衛門尉範成左近將監義保等
 いか愛智御曹司と傳へて子孫もあの有松村にありてつとて
 按々に 仲哀天皇の御時天國より日本とまじとてまづ鹿輪
 より自のとき伏せし鬼神のめく身の色赤く頭ハウて黒
 雲にのり虚空と馳来りて日本にあり人氏とぞりころすや浪
 舟 天皇其より自ら御幸可なりて十善の御位の
 らりて鹿輪と射殺りてハ幡愚童訓に及んるハ頭
 鬼の故事によりてつひ傳へり里俗の物語ゆゑ

益田森

益田村にありて一井ありて昔の井といひてソハ人非並走つた
 院にありて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納
 院にありて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納
 院にありて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納

益田山加納院

益田山加納院 田村より真吉家長野村石佛寺本面とて東源寺とて大正六
 建主、又万徳寺所蔵の寶印十神名法の奥書に永正拾四丁丑霜月廿七
 益田寺成息大空坊書之とありて小院ありて古雅なり

東源寺

東源寺 不可極簡寺 易成 慈徳 古高松 老懐 入野 水流
 紅娘名未記 白馬進 猶 留書 事番 誰明 福花 四面 秋

馬橋

馬橋 其のち里人言とて其の馬橋と名づけし其の橋今も残りて其の橋川に馬橋と
 て古語に依りて人言とて其の馬橋と名づけし其の橋今も残りて其の橋川に馬橋と
 小ありて其の橋にありて

東源寺

東源寺 田村にありて東源寺とて大正六に世寂とて建主とて大正六に
 の用水とて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井
 といひて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井

増田右衛門尉長盛

増田右衛門尉長盛 田村の人秀吉に仕て五奉行の一人なり大正六に増田右衛門尉長盛
 といひて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井
 といひて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井

中莊山無量光院満願寺

中莊山無量光院満願寺 中莊村にあり真吉家 長野村石佛寺 ありて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井
 といひて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井
 といひて其の井といひて古社ありて古天の砂りよを古村加納院にありて其の井

天平七年行基菩薩の爾基より其後天曆四年の兵乱の當半
悉く烏有となり本堂漢土堂のみ妙々と達仁二年沙弥行西
再建し學匠とてより支院十二坊と區々や舊觀を復せり云
小水祿の候より樹々を坊廢し本堂一字と無量光院のみ妙
巧て其餘の堂すも悉く古跡とれり康正二年遣内裏段錢
并國役引甘小等持寺領尾張國中庄段錢も巧めやく足利家
の菩提寺の領地され其庇除く其傾ハ砂の盛なりと彼世
衰てのらわくいかりるなり○本尊 阿彌陀の大佛すれども又得て
崇寺高き寺の寺の三階に一本寺とて其古蹟ありて 寺宝 不
動明王 弘法大師 智證大師 不動明王 不動明王 蓮慶
沙門 同 土一而觀音 智證大師 千手觀音 不動尊 矜羯羅制多
三幅對 妙譯 涅槃像 一幅 兼書二季新造涅槃像一幅 兼書中兵滿鑊常持
年二月十五日堂津尼公大地主了阿彌陀佛とて巧に則千木長者の妻と兼て
書き入て奉施せりと兼寺の什宝も同物なり画者も地蔵司ありといひて人

五大尊一幅 喜福土半良 愛深明王 弘法大師作 辨財天 同 聖佛大日尊 同

三尊阿彌陀像 基心僧 西界種子曼陀羅 紙金泥一幅 性威法印 肖

像一幅 伊藤吾京之進肖像 一渡唐天神一活板大般若經 二冊兼

年癸丑十月日蓋す 華畢より其年は画 塔頭 滿願院

此品の如く記すあり其年は 西暦 瑞寶院

五尊の一人の左はびり行はれ得たり而たききりきりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
りして四面の向ふとおむし風はくさるゝあつて人におぼれしりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
里しとの里におむし風はくさるゝあつて人におぼれしりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
西山東隈をさしてふるまをの傍かし 一旦大蛇にさるゝあつて人におぼれしりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
けり其名は神御内一區の草やまらふの砂り 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
まはるゝの表はむと 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
りてりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし
聖佛の聖像一きゆにあらん 何れとてふに 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし 兼て二人の左はびり行はれ得たり而たききりし

縣官 曰村ありては古一様ありて其所の役人取承主馬分天子の至臨及び沖下

堀田尾張守之高 堀田村の人堀田氏に由りて今も元富長と傳へりて是縣官に在

大屋中三安資 大屋村の人今其居地詳く伏 東鑑曰治承五年三月十九日乙

未尾張國住人大屋中三安資馳奏鍾倉申云去十日侍中 新中

被仰舍云云又曰壽永三年四月三日辛未尾張國住人大屋 中三安資依有其功如元管領所帶刺可鎮國中狼突之由給

御下文統前三郎奉行之當國者悉以順平氏之處安資為和

田小太郎義盛之駕獨侯源家之間如此云云

滝川氏城跡 曰村ありて今八幡といふ所は源氏の本所なり

小富士塚 曰村ありて頂ふ所は源氏と保元平治の事なり

大富士塚 曰村ありて今八幡といふ所は源氏の本所なり

業作神社 曰村ありて延喜神名式に業作神社本國版の三三位業作天神と云ふ

敢臣殿主 曰村ありて今八幡といふ所は源氏の本所なり

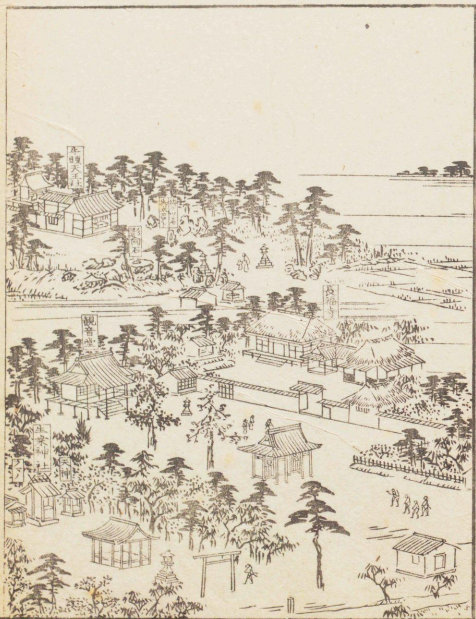
天應元年五月丁亥尾張國中島郡人外正八位上業作臣殿主

言已等与伊賀國取朝臣同祖也是以曾祖父守奈已上皆為敢

臣而祖父得唐庚午年藉謬從母姓為業作臣伏望欽業改正

於是船主等八人賜姓敢臣主三代實錄及類聚國史曰貞

觀二年十月廿八日戊辰太政官論奏曰尾張國人敢臣主吉



敢臣宗貞等毆殺宗貞兄敢臣繼雄云云國司斷而言上法官
覆案皆當斬詔滅死一尋處之遠流

坂手神社 坂田村ありて今天神社と稱す延喜神名式も坂手神社本國帳に從三位坂手天神とありて今天神とありて今天神社と稱す延喜神名式も坂手神社本國帳に從三位坂手天神とありて今天神とありて今天神社と稱す

鹽門天神社 鹽川村ありて今八幡社と稱す本國帳の從三位鹽門天神とありて今鹽門天神とありて今鹽門天神社と稱す延喜神名式も鹽門天神とありて今鹽門天神社と稱す

紫烟山額應寺 口村ありて本郡赤松子寺と稱す本郡赤松子寺と稱す延喜神名式も紫烟山額應寺とありて今紫烟山額應寺とありて今紫烟山額應寺と稱す

賣夫神社 八幡社と稱す 延喜神名式も賣夫神社本國帳の從三位賣夫天神とありて今賣夫天神とありて今賣夫天神社と稱す

位賣夫天神とありて今賣夫天神とありて今賣夫天神社と稱す

ふくふく回例あり伊香色雄命の侍子大呼布命とあり

屯倉舊趾 三宅村ありて和名妙小中島郡三宅一カ田地とありて今屯倉とありて今屯倉社と稱す

日本書紀曰武小廣押盾天皇元年獲我大臣稻目宿禰宜遺尾張連運尾張國屯倉之穀云云

生衆神社 田村ありて今三宅の生主神とありて今生衆神明と稱す延喜神名式も生衆神社とありて今生衆神社とありて今生衆神社と稱す

氏録小的臣建内宿祢男葛城襲津彥命之後也とあり

今伊勢の内宮外宮とあり

半頭天王社 田村ありて今半頭天王とありて今半頭天王社と稱す

いさか池水に流れて付島にあり

元宮とあり

いね手若山とあり

寸とあり

跡とあり

大悲山長福寺 田村ありて真言宗也

今伊勢の内宮外宮とあり

今半頭天王とあり

いさか池水に流れて付島にあり

元宮とあり

いね手若山とあり

寸とあり

跡とあり

三宅天王祭
一時上臈



西月廿六日外八雲門神時を
くぐりて神主の天皇に御まじり
一日高社に人出着の御まじり
かして里番三人を身し其
御まじり終りて浮世界より高
くして御人に出行けりば高
天に御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉
一人の御まじりて神主と奉

國分寺廢跡

矢合村ありて今も礎石跡あり古瓦多く地中に埋
聖武天皇佛道と累りあり

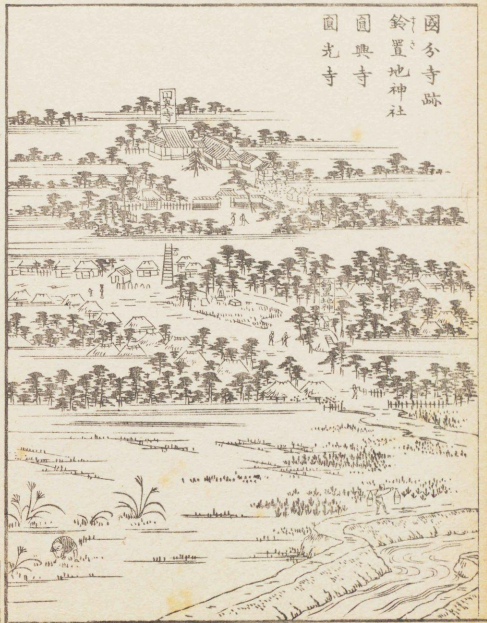
厚く清玉に國分寺又國分丘寺と建て國土安穩のりり小多
の傍尼小倉に法華經家勝王經と傳じり跡あり古碑
あり扶桑記神皇正統記續日本紀曰天平十三年三月己巳

詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明家
勝王經妙法蓮華經各一部

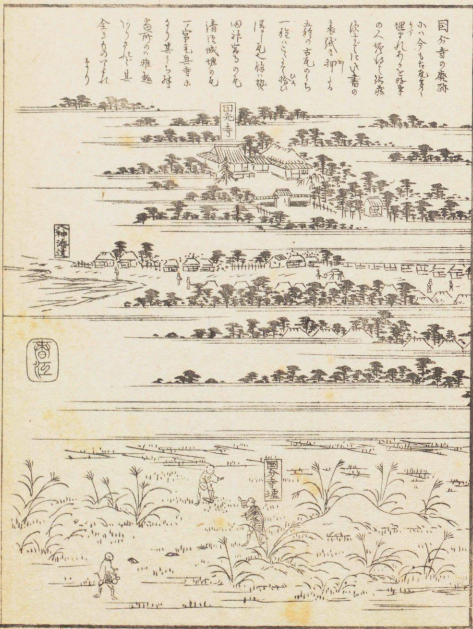
別擬寫金字金光明家勝王經每塔各令置一部所真聖
法之盛与天地而水流擁護之恩被幽明而恒滿其造
塔之寺兼為國華

近人則不欲薰梟所及遠人則不欲勞衆歸集國司等
各宜務在嚴飾兼畫潔清近感諸天庶幾臨護布告遐
迩令知朕意又每國僧寺施封五十戸水田一十町凡

國分寺跡
 鈴置地神社
 圓興寺
 圓光寺



國分寺の廢跡
 小の今も残る
 礎石の跡
 の久野の地蔵
 依りては古
 寺跡の光り
 一様にも
 ぼり見物
 田井宮の
 清は城の
 丁舎も
 あり
 高野の
 りり
 全
 あり



寺水田一十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明
 四天王護國之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華
 滅罪之寺云云又曰神護景雲元年五月戊辰尾張
 國海部郡主政外正八位下刑部周足獻當國分寺
 米一千斛授外從五位下 又曰天平感室元年五月
 戊寅尾張國山田郡人外從七位下生江臣安久多印行
 本安
 延喜主稅式云尾張國正稅公廨各廿万束國分寺料
 二万束支殊會料二千束 元亨釋書云釋光勝不言
 姓氏為沙弥時自稱空也人又不諱言空也少好佚遊
 天下殆遍弱冠於尾州國分寺薙髮為沙弥天慶元年
 入王城於市齋唱弥陀勸化人人呼為市上人 云云
 鈴置地神社 同村にあり本國狭小中島郡正四位下鈴置地神とありし南村と
 びり鈴置郷とつひり砂島と行旅の古名なりといふ傳説

將軍崇尊親王之御息女梅君二十六歳ふおりまけり内ありし時夫を思ひて
 方々うらひてびりうらひとささせしうけしに於て山盛とてさしてけりまは次
 ちりりとの傳と著きし清善現と名ひきりしを善傳と稱傳とつひりまは里の
 名とてけり甲辰つひりしなり

万松山圓光寺

同村にあり臨濟宗妙興寺末永和元年妙島もの田元大照禪師創
 建後別 禪師の本傳と安置 田石碑ありこは禪師心化り地
 なり

本尊

教者の
 本佛

鈴置山圓興寺

同村にありて田家用末南も永和元年大照禪師の創建なりて
 今俗にあきり寺とてなりを其親善本傳又境由小秋迎堂なり
 其老嫗の傳と安立す善哉園殿といふ人今あきり置傳なり田興寺殿
 國泰儀分居士長保三年二月十一日又蘇園院殿鈴置大姉長保五年二月
 十一日の文字元より本傳と傳か御石碑といひありあちの深峯あり

名産大根切干

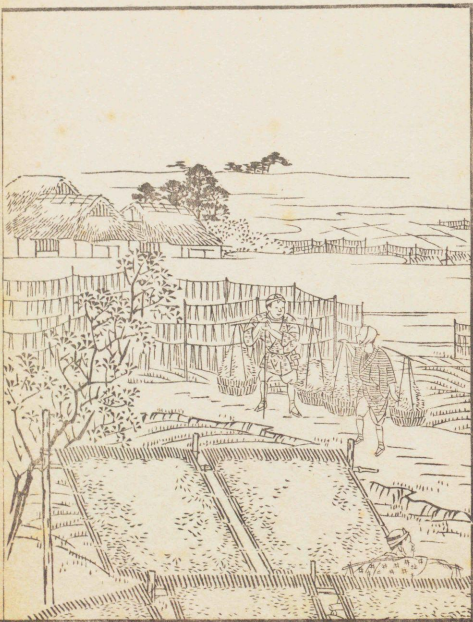
同村及び近村に蓄次割干輪切干と多く作りて高か
 かりて諸少運送となり臨一交にあか名産の物なるあり

此寺地集所縁見陽秋園人より名産の蘿蔔ありといひて
 唐の多と堅く揚(破りたりは園大根の切り) 糸 委實慶
 貞祐

船橋着址

此橋村にあり本名川の支流とていへり本傳とていへり大川より
 せ川よりせ川寺の
 まの標れなり

せ川よりせ川寺の
 まの標れなり



船橋觀音堂 同村にありを古上面觀世音菩薩の像あり高木三三所の一所なり五月十七日十八日に駕の橋と出次張段志累に大悲山安樂寺とあり

大鈴山國鎮寺 法華寺村にあり曹洞宗 谷持寺ともわけりわくらん

トノ國分尼寺 妙法一たり 聖武天皇勅額の國分尼寺に地ふりうが荒廢一其跡小再興して曹洞の禪刹とたり

至分尼ちハ法華滅罪之寺と名づけたり 幸續日本紀扶

京畧記元亨釋書の資治表等にんるゆく法華之寺と

喰ひが村名小跡アノのこしてむりの地ハ老松樹ありて巨蛇ふと栖こたり 今ノ今ノ國鎮寺興立のら松もたせ

巨蛇も退散しけり 陸尾にも多尼ちハ今陸尾と日谷持寺といふ陸尾あり

白山權現社 同村にあり古社小古と并建一面ありて兼鎮に較阿國善在郡法華寺に

格附宗ともあり

越前國舟中堂田寺

三ノ三十四

成の續本國よりあり

山口保 山口村と云保し今ノ五人組のゆく但命とアノの毎と所衆の法曆二年二月廿四日沙鉢羅史ヲ撰取國中島郡山口保とあり山トといふ

名なる山の神と云例と云ハ彼風玉記談話云之ヲ起山吉藤山との麓と云り

野見神社廢跡 浅井村にありて今其地とせ見と云り式内と云ハ本國權小從二位野見

浅井神社廢跡 北名の井江かれと廢りて年久し社地とあり人びに

河保下天神社 片赤一色村のり行保と云社にありて今白山持現と稱次本國權

旭照山善應寺 同村にあり持上宗 建仁年中一色左京大夫満吉といふ人

敷山の乘蓮上人と招清一師小随つて受戒一難髪の後三戸邊

と号一閑基と云はり郷中四ヶ所小四神の法と劫清して法寺

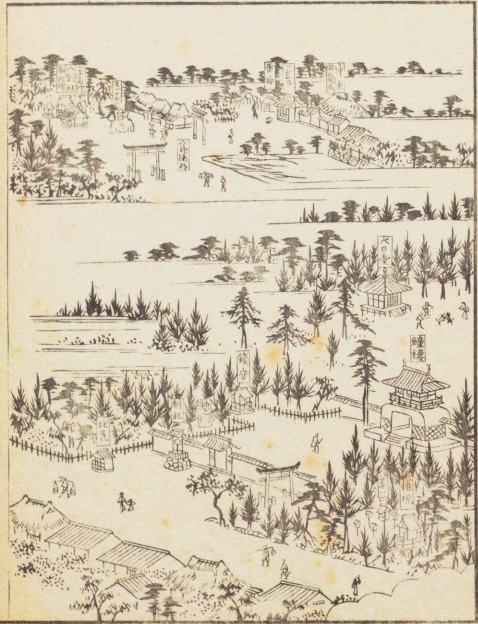
と云ら二百餘年と傳へ梅本伊賀守 同師三宅村のり今五十年

善應寺
川曲八劍社

八劍社の境内より金毘羅社の
のまじりたるの森にあり
神樂と奈一社所とも伝
者不のいし給むに云云
相安のい奉納の機と云
まつん伝ふ人おまはる
ひまのい大塚合



善應寺



本者と別處に安置一阿陀陀か来とさるるここの家よ改りて
橋分伊賀守の位碑ありて善應院月窟明田

八剣 上田村より御清年月あつて依中世高村の謀と橋分伊賀守は善應一丈建の境北

八剣 上田村より御清年月あつて依中世高村の謀と橋分伊賀守は善應一丈建の境北
金毘 各非お冠御親命とて則罪神にたりて依及八剣大神と夫所の神井とあり

羅社 初宮田吉氏の宅にあり文化十二年の御清年月は年一歳に定まり三月九月の十日

雷神社 境内にありあはれより古徳の守

延喜神名式小中島郡布智神社本國恢小從

一任布智天神 湖森天神といふ
年中に鎮火祭の御禮を官命とわりてあひてあもごりて
末社 種荷 神主 田島

野田正琳寺 田村より左を政子と云未出陣一祭あり大和永守知郡より紀盛

例祭 正日土土射春の社日五穀成熟祭等あり

延喜神名式小中島郡布智神社本國恢小從

野田正琳寺 田村より左を政子と云未出陣一祭あり大和永守知郡より紀盛

文登 三手原州石神神志田村のつ川口又の法證とて大光院西琳寺に改む
王塚 山崎村にあり塚原の上に徳正の名揚りて形も奪りて併儀も厚成進社神とありて

徳永法印城壘 田村にあり其より今田園とて徳永正見守昌時より式部神法印會
八劍宮社 上田村より本國恢親親小式内の布智神社と外社に分くるは古高島宮と云

伊福部御厨 結衣村より神尾村に二宮尾張國伊福部御厨各八咫三足丁丁足
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國恢小

鹽江神社 中津村より今延喜神名式小中島郡鹽江神社本國恢小

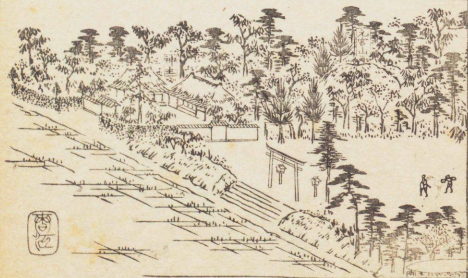
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國恢小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國恢小

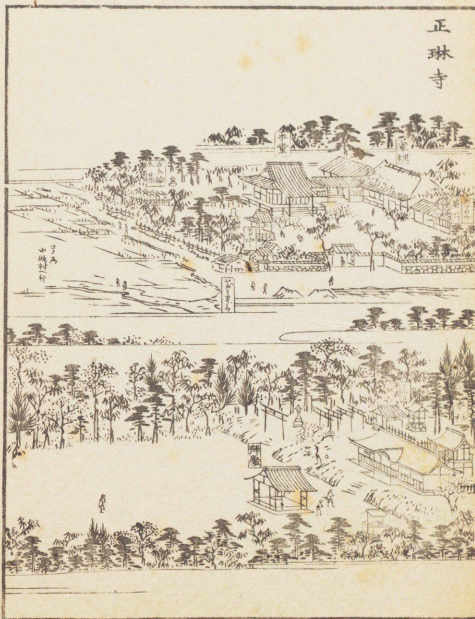
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國恢小

布智神

とまら茶此
あつたつと
ちまや
珠毛舟
ありはるん
水堂長前



正琳寺



祖父江堤
永張寺
廣口川
神明社

掛巻を
言にわくどし
廣口川
川のそと
南景
とれ



池方
舟を少の
浮原寺
南

廣井

廣川

あふゆらとさ
山のうをあふ
おしきとめめぬ
つあさうとひと
とまのりり川の
ソヤ、産とそま此
川のゆきとさ
少あつらりた
まはもろり
かさうひのそや
まへもえり
ろんあさう
とてし
海と境の一人也
見く

岡岡



題定松
百丈老青
松吹空似
催星仰看
撫昔人封
彌定何人
佐藤山

南

方

皇大明神社

中城の南に西宮
つうつて
此所のこの
社世の清き此
所とて
むくまのり
あはれ
貞足



三十四



皇

岐蘇川
長良川
落合
神明津



川中
汚糸
子胡



落合

車輪

川 中牧村より本吉川の支流あり。水音をうるく。けり。今、大川
の分所より、尾張國に登り、川と河川、昔清公記に大野貴公命と巡國
の四柱運の足跡あり。尾張國と云ふは、尾張小五郎跡頭之贈と云ふ事
あり。

皇 大明神社 田村にあり。牧子跡七ヶ村の夫と許して、神樂舞の天竺三年の御社
なり。其儀は、小社とて、櫻井、精舎、御時、地、寺、通、今、の、や、あ、さ、り、本、村、

日本武尊天皇、皇孫春日大明神と云ふ社地に、日本武尊天皇の時、伊弉諾と山井の真小
行り、此の地にて、皇明神、靈野に御り、今、乃、と、善、表、の、体、に、つ、つ、の、宮、法、と、り、て、成、り、

神 神明社 田村にあり。此、地、本、吉、川、の、岸、に、て、尾、法、美、濃、の、境、に、り、美、濃、飛、騨、位、

神 神御園 神御園と云ふ、田村小井、明法、乃、以、御、園、の、地、を、知、清、と、し、祀、り、あり、

濃 濃寺 乃、伊勢春官の者、む、川、舟、小、り、下、り、必、じ、地、小、社、と、り、て、あ、

社 社と稱し、あ、伊勢流小井、通例、之、を、に、村、名、と、神明、律、と、り、

春 春光山浄安寺地泉院 田村のけり、真言宗、名、古、名、大、真、福、寺、と、云、ひ、長、岡、山、長、世、寺、

又、大梵刹と云ふ、十二坊あり。廢り、今、此、地、泉、院、一、坊、と、り、

長世寺の社名、開基、と、て、慈、心、集、中、真、福、寺、の、二、品、住、持、法、親、王、無、常、と、り、小、井、真、隆、善、春、と、

と、を、名、に、承、苦、薩、行、甚、苦、薩、の、真、作、り、以、此、地、を、名、り、此、向、と、り、本、吉、川、の、地、を、住、某、

尾張名所圖會後編卷之二 畢



愛知 県



1103263959

294

才

1A-2-2